



12/1 木 13:30~17:00 入場無料

匠と地域資源を活かす 「復興住宅」と雇用を考える

東日本大震災・復興とソーシャルイノベーション

第一部：講演（同時通訳）

アントレプレナーシップは世界を救うことができるのか？ Can entrepreneurship save the world?

講師：エルミラ・ベイラズリー氏（国際経済開発ライター、元エンデバー政策担当副代表）
限られた資源の中で、起業家精神を育成し、事業展開を支援してきた各国での
経験を語ります。



エルミラ・ベイラズリー氏

第二部：ワークショップ（フューチャー・センター・セッション）

“匠と地域資源を活かす「復興住宅」と雇用を考える”（木望プロジェクト）

ゲスト：

- 上野英二氏（オークヴィレッジ木造建築研究所 建築家、オークヴィレッジ株式会社専務取締役）
- 畠山 信氏（NPO法人森は海の恋人副理事長）
- 鈴木崇弘氏（日本政策学校理事、城西大学大学院・中央大学大学院客員教授、政治・政策研究が専門）



上野英二氏

ファシリテーター：

- エルミラ・ベイラズリー（国際経済開発ライター、社会起業支援、特に成長戦略が専門）
- 服部篤子（CAC社会起業家研究ネットワーク代表、一般社団法人DSIA常任理事、ソーシャルイノベーションを推進）
- 野村恭彦（国際大学GLOCOM主幹研究員、富士ゼロックスKDIシニアマネジャー、知識創造型組織づくりの専門家）



鈴木崇弘氏

写真提供：スタジオキャンドル

- 主催：東京アメリカンセンター・米国大使館
- 共催：国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）
- 共催：一般社団法人DSIA



会場

カタリストBA
(二子玉川 RISE・オフィスビル8階)
東京都世田谷区玉川 2-21-1
東急田園都市線・東急大井町線
二子玉川駅下車徒歩1分

二子玉川 RISE・リバーフロント
(オフィスビル)シャトルエレベーターから
低層階用エレベーターに乗り継ぎ
8階へお越しください。



気仙沼の牡蠣の養殖再開と畠山信氏

お問合せ ▶ 国際大学GLOCOMイノベーション行動科学デスク(仁平) info_ibs@glocom.ac.jp
お申込み ▶ <http://www.glocom.ac.jp>

なぜ仮設住宅は「プレハブ」なのだろうか？

住宅は、住む人々が少しでも癒され、少しでも心地よく過ごせる場所。それは、被災地においても、同様のはずであり、さらに復興に取り組むことを支える最も重要な環境。しかし、多種多様な難問が山積み、被災者の雇用や住環境は劣悪なままである。

このような状況において、住環境と雇用を同時に創出する復興の1つの考え方がある。それは、「仮設住宅から復興住宅へ」というものである。

宮城県気仙沼に、1棟の木造建築が完成した。

それは、津波で全壊した NPO 法人「森は海の恋人」の事務所である。

オークヴィレッジ木造建築研究所は、震災後まもなくから、「仮設住宅から復興住宅へ」という概念を提唱してきた。それは、より具体的には、「日本の伝統的な木組みを用い、解体・再利用が可能な復興住宅へ進化できる。その概念を、新たなまちづくりに活かさないだろうか。」

「森は海の恋人」は、宮城県気仙沼を拠点に、『自然の「環」から、人の「和」を育てよう!』をキャッチフレーズに、環境教育・森づくり・自然環境保全の3分野で活動し、人財づくりに力をいれてきている。

「森は海の恋人」…この概念は、今や、国境をも越えて、活動が行われている。

(その詳細は、同法人のサイト <http://www.mori-umi.org/index.html> をご覧いただきたい)

復興には、このような「ソーシャルイノベーション」が必要ではないだろうか。

その「ソーシャルイノベーション」には、復興につながる知恵と情報を集め、企業と社会セクターとの連携、地域と都市との連携が不可欠である。多様なステークホルダーによって成り立つ、事業モデルを模索する必要がある。

本シンポジウムでは、上記のような観点に基づき、1つの復興モデルを素材にして、地域に、住環境を提供し、雇用を生み出す新たなまちづくりをいかに行うことができるのか、そしてそのまちづくりを民間の力でどのように実現すればいいのかを考えていきたい。



オークヴィレッジ木造建築研究所

『100年かかって育った木は100年使えるモノに』をモットーとして、伝統的な木造建築の技法をベースに、魅力ある空間づくりを目指し、設計から施工まで一貫して手掛けています。

<http://oakv.co.jp/kenchiku/index.html>

プラカデミア・サロンとは

「プラカデミア」とは、実務家（プラクティショナー）と大学関係者（アカデミア）からなる造語で、実務家の実績と研究者の研究成果を活かした新たな実践の創造を目指すため、国際大学 GLOCOM にて2008年度から発足しました。現在、企業を超えたチームを作り、各社の本業を活かした形での社会イノベーションに挑戦しています。

<http://www.innovation-glocom.jp/pracademia-salon/index.html>



本シンポジウムは、グローバル・アントレプレナーシップウィーク (GEW) ジャパンに参加しています。GEW とは、2004年にイギリス前首相ゴードンブラウン氏の提唱により「Enterprise Week」が発足したことから始まりました。現在、1週間にわたる開催期間中、6大陸に及ぶ100カ国以上の国々で、数百万名の若者が新たなアイデアを持ち寄り、刺激しあい、かたちにする、という起業家精神を啓蒙する世界的なイベントとして展開されています。▶ <http://entrepreneurshipweek.jp/>